

## 広島藩の藩校から修道へ

講師：畠 眞實（修道学園史研究会会長・元修道中学校・高等学校校長）

開講日：第1・第3火曜日（5月、8月変更）、13:30-15:00、全10回、

定員30名 受講料20,000円



写真. 明治38年頃の修道学校（八丁堀）

■講座の趣旨：広島藩の藩校の歴史は1725（享保10）年11月に始まりました。藩校ではどのような学びがあったのか、藩校の歴史・精神はどのように受け継がれたのか、明治以降の広島にどのような影響を及ぼしたのか。これらは、一般にはよくは知られていませんが、広島文化と人材育成を考えるうえで重要な意義をもつと思われます。

### ■講義の内容

- 4月19日 第1回 広島藩の藩校のはじめ — 浅野吉長と寺田臨川 講学所から講学館、御省略へ
- 5月17日 第2回 藩校の再興、学問所 — 浅野重晟と頼春水の働き
- 5月31日 第3回 学問所の教育 — 学問所の実態 学派の対立 異学の禁
- 6月7日 第4回 文武塾と修道館 — 広島藩の隠れ城、文武塾
- 6月21日 第5回 修道館以後の広島教育 — 廃藩置県での修道館の閉鎖 遷喬舎と浅野学校
- 7月5日 第6回 浅野学校から修道学校へ — 浅野長勲創設の浅野野学校 山田養吉の抜擢
- 7月19日 第7回 山田養吉の日記にみえる幕末・明治の広島① — 幕長戦争 武一騒動
- 8月9日 第8回 山田養吉の日記にみえる幕末・明治の広島② — 広島新聞 木原適処
- 8月23日 第9回 修道学校から私立修道中学校へ — 苦難の時代と支えるもの
- 9月6日 第10回 藩校の精神の継承 — 伝・学問所土蔵の移築・復原の意義など

### ■講師紹介：畠 眞實（はた まこと）



1936年、広島県生まれ。広島大学文学部国語・国文学専攻卒業、修道中学校・高等学校に勤務、1995年から2004年まで校長を務める。修道学園史研究会会長。著書は共著として『十竹先生物語』（修道中学校・高等学校発行）と『日本文学史 副読本』（第一学習社）。また、修道中学校・高等学校の研究誌「紀要」に山田養吉の日記解説を掲載中。趣味：史跡散策、俳句、歌うこと。座右の銘：一期一会。

※ 受講をお申込みの方は、①お名前と②ご連絡先（E-Mail アドレス、住所、電話番号）をご記入の上で、E-Mail もしくは FAX にてお申込みください。

E-Mail : [c.a.kaminobori@outlook.jp](mailto:c.a.kaminobori@outlook.jp)

FAX : 082-225-8103

